

子供たちに伝えたい 日本の良さ

平成 30 年 11 月発行(第 44 号)

東京都教育庁指導部指導企画課
教育経営・教育課程担当



【東京都は、東京 150 年を機に、都民の皆さんに「伝統」と「革新」が共存する東京の魅力を改めて実感してもらうために、「Old meets New 東京 150 年」のロゴマークを制作しました。】

今年、江戸が東京となって 150 年という節目の年です。1868 年、江戸が東京に改称され「東京府」が誕生しました。年号は明治に変わり、初期の東京府は今の 23 区とほぼ同じ範囲でした。

区画の移り変わりや人口増加を経て、多摩地区や島しょが加わり、150 年をかけて今の東京都ができあがっています。

現在は行政区域は特別区である 23 区と、26 市 5 町 8 村から成り、約 1,300 万人が暮らす世界有数の大都市となっています。

今月のテーマは、「江戸から東京へ」です。

江戸が東京になった日

おうせいふっこ だいごうれい

王政復古の大号令によって新政府は誕生しましたが、首都を東京にすることは簡単には決まりませんでした。政府内には、大阪（当時の大坂）を首都にすべきという意見もありました。

これに対し、世界の大都市である江戸を首都にすべきという「江戸遷都論」や「東西両都の建白書」が出され、江戸を首都にすることが決まりました。



つきおかよしとし

【月岡芳年「東京府京橋の図」(東京都立中央図書館)】

12 月に天皇はいったん京都に戻りますが、翌年 3 月に再び東京に行幸し、その後、京都に戻ることはありませんでした。

東京遷都の理由は、江戸は世界のほかの首都と比べても見劣りしない 100 万人の大都市であるとともに、大名屋敷が多く、大坂よりも都市改造に都合がよかったからとされています。

西の「京」に対し、江戸を「東の京」=東京とし、1868 年 10 月、明治天皇は東京に行幸しました。

左の絵は、東京の京橋付近の行幸の様子を描いたものとされています。

東京の人々はこの東幸を盛大に祝福しました。京都などでは、「東京に遷都するのではないか」という不安や動揺が高まったと言われています。



参考 「江戸から東京へ(東京都教育委員会)」

調べてみよう

王政復古の大号令

江戸東京 150年をつなぐ世界が認める匠の技

東京の伝統工芸品は、長い年月を経て東京の風土と歴史の中で生まれ、時代を越えて受け継がれた伝統的な技術・技法により作られています。

伝統工芸品は、手作りの素朴な味わい、親しみやすさ、優れた機能性等が、大量生産される画一的な商品に比べて、私たちの生活に豊かさや潤いを与えてくれます。伝統工芸品は地域に根ざした地場産業として地域経済の発展に寄与するとともに、地域の文化を担う大きな役割を果たしてきています。

現在、41品目が東京都の伝統工芸品として指定されています。

江戸切子（えどきりこ）

江戸切子は、ヨーロッパのカットガラスの技法を取り入れた工芸品です。

光の反射が魚卵の連なりに似ていることに由来する魚子をはじめ、20種ほどある伝統的な文様は、少しも色あせることなく現代の食卓に華やぎをもたらしています。

江戸切子は厚さ1ミリ弱の色被せガラスに繊細な彫りを施し、その特徴であるシャープで鮮明な輝きを生み出します。

様々な形状のものが作られ、日用品としての使い勝手の良さ、長く使っても飽きのこないデザインが追求され続けています。



東京くみひも

くみひもは武士のよろい鎧かぶと兜のおどし糸や刀を下げるげ緒など、武具の一部として発達し、戦闘時にも耐え得る堅牢な組み方が現在まで受け継がれています。

17世紀以降は庶民の日用品である帯締め、根付け紐などに用途が拡大しました。

日本の豊かな四季を反映した季節の色が、細やかな模様に乗ります。職人は紐がきつ過ぎず、かつ緩むことのないように心掛け、糸と糸が交差する組み目の味わいを大切にします。

現在は携帯電話のストラップや犬用のリードなど、新たな製品も作られています。

東京洋傘

1854年（安政元年）にペリーが日米和親条約締結のために浦賀に来航した際、洋傘が持ちこまれ、世間の注目を浴びたと言われています。

1872年（明治5年）に洋傘製造会社が組織され、東京の職人たちの手により東京洋傘の本格的な生産が始められました。

一切の妥協を許さず、手間を惜しまない職人により作り上げられた東京洋傘には、均一でバランスのとれたフォルムを追求するが故に編み出された高い技術を要する東京独自の縫製技法や、使う者の使い心地を高めるための職人の細やかな心遣いも散りばめられています。

雨の日は雨傘を、日差しの強い日は日傘を使用することで、天候による憂鬱な気分を喜びに変え、私たちの心を豊かにしてくれます。



東京いまむかし

行政区画の変遷

明治 26 (1893) 年に神奈川県から三多摩地区が東京府に移管され、現在の東京都の原型ができました。



人口

明治 5 (1872) 年の時に約 86 万人だった東京の人口は、西南戦争、第二次世界大戦などでの減少はありましたが、戦後 10 年で 2 倍に増え、昭和 37 (1962) 年には 1,000 万人を突破し、平成 21 (2009) 年には 1,300 万人を越えました。

明治 5 (1872) 年 86 万人

現在 1,376 万人

鉄道料金 (新橋—横浜間)

新橋—横浜間に鉄道が開業して 140 有余年が経ちました。この間、首都圏の鉄道網は放射線状に広がり、首都圏で生活する人々の重要な移動手段になっています。

鉄道開業当時は、新橋—横浜間の片道切符の一番安い料金が 37 銭 5 厘でした。当時の普通の勤め人の月給が 10 円程度なので、いかに高価だったかが分かります。

明治 5 (1872) 年 37 銭 5 厘

現在 470 円 (JR 東海道線)

ランドマーク

浅草凌雲閣 (りょううんかく) は、浅草公園に建てられた 12 階建ての展望塔で明治 23 (1890) 年に竣工しました。当時の日本で最も高い建築物でしたが、大正 12 (1923) 年の関東大震災で半壊し解体されました。

それから 1 世紀以上の時を超えて生まれたのが東京スカイツリーです。新しい東京のシンボルが、下町の魅力を世界に発信しています。



凌雲閣
52m

東京スカイツリー
634m



企画展示「Old meets New 東京 150 年 変わりゆく東京」

都立多摩図書館では、東京都公文書館やたましん地域文化財団歴史資料室等と連携し、「東京 150 年」を振り返る企画展示や関連イベントを開催しています。

第 1 期の東京都公文書館パネル展「東京 150 年 ～公文書と絵図が語る 首都東京の歴史～」は、平成 30 年 9 月 10 日（月）から同年 10 月 18 日（木）まで、都立多摩図書館展示エリア（1 階）で開催されました。東京都公文書館で所蔵している資料から、東京の成り立ちや発展を読み解き、東京府開庁に関する公文書をはじめ、この時代に活躍した、勝海舟、渋沢栄一、後藤新平等に関するパネル展示を行いました。

現在は、以下の内容で第 2 期展示を開催中です。

第 2 期 「都域の拡大と変貌」

日時：平成 30 年 10 月 25 日（木）から同年 12 月 16 日（日）まで
（※休館日 11 月 1 日（木）・16 日（金）、12 月 6 日（木））
場所：都立多摩図書館 展示エリア（1 階） 入場無料

三つのエリアで、東京の 150 年を視覚的に振り返ります。

<エリア 1 変貌しつづける都市 東京（都立中央図書館巡回展示）>

都立中央図書館企画展示「変貌しつづける都市 東京」で展示した資料の一部を展示します。

東京 150 年の主な出来事を通史的に振り返るとともに、古地図、写真帖、絵葉書等の豊富な東京関係資料や、都立大崎高校ジオラマ部製作のペーパージオラマ等を用いて都市景観の変遷や街が発展していく様子を紹介します。



都立大崎高校生徒作品 ペーパージオラマ

<エリア 2 映像で知る東京>

明治以降の東京の歴史が分かる映像を随時上映します。

上映作品の中には、当館が所蔵する 16 ミリフィルムの中から今回のためにデジタル化した作品もあります。

上映作品

「首都東京 その歴史とひろがり」（共立、1978 年制作、30 分）

「東京 100 年 社会教育映画の紹介」（NET・東京都教育庁、1972 年制作、30 分）ほか

<エリア 3 多摩 昨日・今日・明日>

多摩地域の過去と現在を、写真等により対比させながら展示しています。

期間中の毎週水・土・日の午後 3 時から、司書によるギャラリートークがあるほか、スタンプラリーも行っています。

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】

- ・東京の観光公式サイト GO TOKYO
- ・江戸から東京へ（東京都教育委員会）
- ・東京都産業労働局ホームページ <https://dento-tokyo.jp/items/index.html>
- ・Old meets New 東京 150 年 ホームページ <https://www.tokyo-150.jp/>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。
今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課
電話 03-5320-6869
ファクシミリ 03-5388-1733